

科目名	社会安全政策Ⅰ（総論）						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	春学期	開講学部等	法学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	田中 駿登						

### 授業概要／Course outline

本科目は、犯罪の予防や社会安全の実現に関して、学際的・実践的な見地から多様な主体の活動について分析を行う社会安全政策の総論科目である。総論科目として、街頭犯罪や企業犯罪などの個別の問題領域を手掛かりに、現在の実践を紹介するとともにそれらを理論的な観点から分析する。それを通して、犯罪の予防や社会安全の実現に向けた様々な主体の関与の在り方を知り、また、法律だけにとどまらない他の専門領域の知見も学習することで、各論科目を学習する基礎を身に着けることを目指す。

本科目では、社会安全政策の各問題領域における実践やそれを分析するための理論的視点について理解し、学生が自身の身近な問題等について考える能力を涵養することを目的とする。

上記の通り、本科目は、社会安全政策の総論科目であり、本科目で学習したことをもとに社会安全政策Ⅱ（各論）、社会安全政策Ⅲ（サイバーセキュリティ対策）なども併せて学習することが望ましい。

なお、本科目では、必要に応じて法律やその他の分野の知見を紹介するため、事前知識は要求されない。ただし、必要に応じて、自ら関連する問題についてより深く学習することが求められる。

### 授業形態、授業方法等／Course form・type

#### 【授業形態】

対面授業

#### 【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

講義をリアルタイムで配信したうえで、講義内容を録音し、講義後約1週間をめぐりに受講生に視聴可能にする。

### 授業内容・授業計画／Course description・plan

講義では、第1回・第2回で社会安全政策の基礎的な考えなどに触れる。その後、前半（第3回～第11回）では、社会安全政策の具体的な問題領域についてそれぞれ2回（サイバー犯罪のみ1回）に分けて取りあげる。その際には、各領域ごとに理論的な分析を行いつつ、現在行われている実践等について言及する。後半（第12回～第14回）では、前半の内容を踏まえつつ、社会安全政策について領域横断的な検討を行う。

#### 【講義計画】

- 第1回：ガイダンス＋社会安全政策論総論
- 第2回：社会安全の水準とその変化
- 第3回：街頭犯罪①（発生要因・課題）
- 第4回：街頭犯罪②（対策）
- 第5回：少年犯罪・少年非行①（発生要因・課題）
- 第6回：少年犯罪・少年非行②（対策）
- 第7回：親密圏内事案①（ストーカー行為、配偶者暴力）
- 第8回：親密圏内事案②（児童虐待）
- 第9回：企業犯罪
- 第10回：サイバー犯罪
- 第11回：社会安全政策の担い手①（警察活動とその変化）
- 第12回：社会安全政策の担い手②（各主体の活動とその範囲）
- 第13回：「犯罪」・「安全」とは？
- 第14回：講義総括＋質問対応

#### ★オンデマンド

各テーマ終了後、受講生からの質問等に応答する補足動画（各15分程度×5回）を配信する。

### 事前・事後学修／Preparation and assignments

本科目では、事前に講義資料（レジュメ）を配布する。受講生は、事前学習として講義資料を一読し、その回のテーマについて自分なりの考えを持っておくことが求められる。また、講義後には講義で使用したスライドを配布する。受講生は、事後学習として、配布した講義資料やスライドなどを用いて講義内容を復習し、その回のテーマに関連する問題について再検討することが求められる。

事前学習と事後学習を合わせて4時間程度となることが見込まれる。

・第 1回～第13回

【事前学習】事前に配布する講義資料（レジュメ）を読み、講義内容について自分なりの考えを持っておく。

【事後学習】配布した講義資料やスライドなどを用いて講義内容を復習し、講義内容について再検討する。また、自身の関心に応じて、提示された参考資料なども読み、講義内容についての理解を深める。

・第14回：講義総括＋質問対応

【事前学習】これまでの講義の内容を踏まえつつ、事前に配布する講義資料（レジュメ）を読む。

【事後学習】配布した講義資料やスライドなどを用いて講義内容を復習する。その際には、自身の必要に応じてこれまでの講義についても再度復習する。

★オンデマンド

各テーマ終了後、受講生からの質問等に応答する補足動画（各15分程度×5回）を配信する。

【事前学習】各テーマについて自分なりの考え、疑問点を明確にする。

【事後学習】配信された動画を視聴し、自身だけでなく、他の受講生の関心も踏まえて、講義内容を復習する。

授業の到達目標／Expected outcome

社会安全政策の各問題領域における実践やそれを分析するための理論的視点について理解し、身近な問題などについて社会安全政策の観点から考えたり、評価したりできるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・主体性

専門知識・専門技能

【法学部 法律学科】

・法律学・政治学の基礎知識

【法学部 法政策学科】

・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

社会の在り方やその捉え方などは常に変化するものであり、それに対応して社会安全政策の在り方も常に変化し続けるものである。そのため、自分なりに考えることが重要であり、講義中の説明に対する疑問などに関する積極的な発言や質問を歓迎する（発言や質問をしやすくなるような手法を検討する）。また、講義内において教員の側から発言を求めることがある。その場合、解答の内容に正解等は決してないため、自由な発想を持って忌憚なく意見してほしい。また、moodle等を通じて随時講義に関する質問や感想は募集する。

なお、講義中の私語等は厳禁である。場合によっては、退席や単位不認定の対象とする。

評価方法／Evaluation

成績評価は、定期試験（80%）と平常点（20%）で行う。

①定期試験：80%

講義内容の理解を理解しているか、理解した内容に基づいて自分なりに別の問題について考えることができるかなど、本科目の到達目標の達成の程度を定期試験にて確認する。

②平常点：20%

平常点は、原則として付加的な要素として扱う。講義に関する質問や発言など積極的な態度を示した場合などには加点要素として扱う。講義の進行を妨げた場合などには減点要素として扱う可能性がある（態度が著しく悪い場合には、単位不認定の対象とする場合がある）。

教材／Text and materials

教科書：指定しない。

参考書：各回ごとに提示する。ただし、以下は全体像を把握するうえで参考になると思われる。

・警察政策学会『警察政策学会20周年記念 社会安全政策論』（立花書房、2018年）ISBN978-44-8037-0035-0

・川出敏裕、金光旭『刑事政策〔第3版〕』（成文堂、2023年）ISBN978-4-7923-5389-6

・警察白書（警視庁ウェブサイト）

質問や相談の方法／Instructor contact

授業に関する質問や相談などがある場合は、授業終了後に質問するか、初回授業時に連絡するメールアドレスへ質問すること。

オフィスアワー等については、第1回講義時に知らせる。